

## 31. 高齢入院患者の長期入院の要因

### ～ソーシャルワーカーの立場からの検討～

中澤知早子<sup>1)</sup>、宮野伊知郎<sup>2)</sup>、西永正典<sup>3)</sup>、高田淳<sup>3)</sup>、矢部敏和<sup>3)</sup>、大崎康史<sup>3)</sup>、  
山崎直仁<sup>3)</sup>、安田誠史<sup>2)</sup>、笹栗志朗<sup>1)</sup>、土居義典<sup>2)</sup>

1) 高知大学医学部附属病院 地域医療連携室

2) 高知大学医学部 予防医学・地域医療学(公衆衛生学)

3) 高知大学医学部 老年病・循環器・神経内科学

#### 1. 背景・目的

病院の機能分化とともに、在院日数の短縮化や在宅退院への移行が進められている中で、多くの病院では退院支援が積極的に行われている。特に、長期入院の可能性が高い入院患者には、早期からの積極的支援が必要となる。今回、大学病院における高齢入院患者を対象として長期入院の要因について検討した。

#### 2. 方法

対象は、高知大学医学部附属病院老年病科に2008年8月～10月に入院した65歳以上の高齢者108名(男性61名、女性47名、平均年齢76歳)。入院期間が30日以上長期入院群:29名と30日未満の短期入院群:79名において、原因疾患、緊急入院の有無、ADL、認知症、医療処置、家族構成などについて比較検討した。

#### 3. 結果

長期入院群において、緊急入院(66%vs28%、 $p=0.001$ )、認知症あり(45%vs7.6%、 $p=0.001$ )、排泄・入浴の介助必要(79%vs19%、 $p=0.001$ )の頻度が短期入院群に比し有意に高かった。長期入院に対する年齢・性別による調整オッズ比は緊急入院4.6(95%信頼区間1.7-12.4、 $p=0.002$ )、認知症あり10.5(95%信頼区間3.3-33.2、 $p=0.001$ )、排泄・入浴の介助必要17.6(95%信頼区間5.6-55.7、 $p=0.001$ )であった。原因疾患では、脳血管疾患を含む神経疾患が長期入院の頻度が高かった(13人中10人)。また、長期入院群において転院の頻度が有意に高かった(45%vs3.8%、 $p=0.001$ )。

#### 4. まとめ

大学病院における長期入院の要因として、緊急入院・認知症あり・ADL低下が明らかとなり、これらの患者に対してより積極的な介入が必要であることが示唆された。